

持続可能な地域：

兵庫の環境再生

兵庫県環境部長
築谷 尚嗣

兵庫県の概要(1)

■日本のほぼ中心に位置し、都市と自然が融合した「日本の縮図」
 ■神戸市を中心とした瀬戸内海臨海部に産業が集積
 ■日本最後の野生のコウノトリが生息していたことから、コウノトリの野生復帰など自然再生の積極的な取組を実施

豊岡市
姫路市
神戸市
淡路市

The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government

兵庫県の概要(2)

- 面積 約8,400km² (全国12位)・・・オーストリアとほぼ同じ
- 人口 約560万人 (全国7位)・・・デンマークとほぼ同じ
県庁所在地：神戸市 約154万人
- 県内総生産(GDP名目) 18兆3,000億円
第1次産業 0.6%
第2次産業 26.4% (製造業 22.1%)
第3次産業 72.7%
- 製造品出荷額の産業別構成
鉄鋼業 13.0%
化学工業 11.5%
電気機械器具 9.3%
食料品 9.3% など

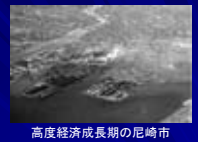


The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government

産業型公害からの環境改善

■1960年代 産業型公害の発生

- 国に先駆けて公害問題に着手
- ・「公害防止条例」の制定 (1965年)
- ・「自然環境保全条例」の制定 (1971年)



■1990年代 都市・生活系公害の顕在化

- 都市生活の発展に伴う自動車排気ガスによる大気汚染や生活排水による水質汚濁
- ・「環境の保全と創造に関する条例」制定 (1995年)



■2000年以降 地球環境問題への対応

- 地球温暖化問題への地方としての取組、生物多様性の保全、人と野生動物との共存
- ・「新兵庫県地球温暖化防止推進計画」(2006年改訂)
- ・「生物多様性ひょうご戦略」(2009年)

The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government

ひょうごの環境再生

■六甲山の環境再生

- ・古来、六甲山は緑豊かな山であった
- ・江戸時代に燃料や資材のために樹木を過度に伐採
- ・明治時代には、地表が見える程のはげ山に

土砂災害の多発



- ・1902年から、兵庫県が緑化事業を開始
- ・1986年、布引と再度山が「森林浴の森日本100選」登録

100年かけて自然を回復



◇六甲山麓フェニックスの森づくり

- ・地域の方々が森づくりに参画
- ・専門家、森林ボランティアとともに、市民の手で森林整備



The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government

ひょうごの環境再生

■尼崎21世紀の森づくり

- ・尼崎は戦後、重化学工業を中心に日本の産業を牽引
- ・一方で、自然の消失、公害の発生など環境課題が発生

尼崎21世紀の森構想(2002年3月策定)

- ・尼崎臨海地域(尼崎市の国道43号以南約1,000ha)を魅力と活力あるまちに再生
- ・人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくり



◇ゼロから始める100年かけた森づくり

- ・森づくりの母体は協議会(市民、企業、団体、行政等)
- ・2006年から尼崎の森中央緑地への植樹を開始
- ・地域産の種子から苗木を育てて市民の手により植樹
- ・工場敷地内の駐車場や壁面など狭小スペースを活用した「すき間緑化」の取組



The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government

ひょうごの環境再生

■野生動物の保護管理

- ・中山間地域の集落の衰退による森林の荒廃
- ・シカ・イノシシなど野生動物の生息数増加

農林業被害・精神的被害の発生

ワイルドライフ・マネジメント

- ・シカ、クマ、サル、イノシシについて県が保護管理計画を策定
- ・森林動物研究センターの研究のもと、「個体数管理」「被害管理」「生息地管理」を総合的に推進

野生動物育成林の整備

- ・バッファゾーンをつくり、人と野生動物の棲み分け
- ・実なる広葉樹林を奥山に整備
- ・地域住民や森林ボランティア等による住民参画の森づくり



荒廃した森林



シカ被害防止の防護柵



バッファゾーン

The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government



ひょうごの環境再生

■豊かな海づくり

- ・水質汚濁の改善、人の健康への影響の防止のため、川や海の水質を「きれいに」してきた
- ・結果として水質は改善され、汚れの少ない川や海になったが、漁獲量の減少、ノリの色落ちなどが顕在化

豊かで美しい「里海」が必要

- ・適切に人の手が加えられた「里海」
- ・水質管理を基本としつつ、栄養塩類の適切な循環の確保により、生物多様性、生物生産性のある海づくり



里海づくりのイメージ

The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government



世界に発信する兵庫の自然

■山陰海岸ジオパーク

- ・世界ジオパークネットワーク:科学的に見て特に重要な地質遺産を含む自然公園としてUNESCOが活動支援
- ・2010年、山陰海岸ジオパークが世界ジオパークに加盟認定
- ・東西約110km、南北約30kmにわたる広大な地質遺産
- ・「地形・地質の博物館」と呼ばれ、変化に富んだ地形や地質が特徴



■ラムサール条約湿地

- ・2012年、「田山川下流域及び周辺水田」がラムサール条約湿地に登録認定
- ・コウノトリの郷公園を中心に、コウノトリの野生復帰を支える市民活動が盛ん
- ・（「コウノトリ育む農法」の展開、希少生物の保全）



The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government



環境学習・教育の推進

■ライフステージに応じた体験から学ぶ環境学習・教育

◇幼児期の環境学習

- ・自然体験を通じて豊かな感性を育み、生命の大切さを学習
- （県内の幼稚園・保育所で実施）



幼稚園での農業体験

◇学齢期の環境学習

- ・地域の人の協力を得て、田畑や里山、水辺などで環境体験活動
- （全公立小学校3年で実施）
- ・自然の中で豊かな感性や社会性などを育む自然学校
- （全公立小学校6年で実施）



里山での自然観察

◇成人期の環境学習

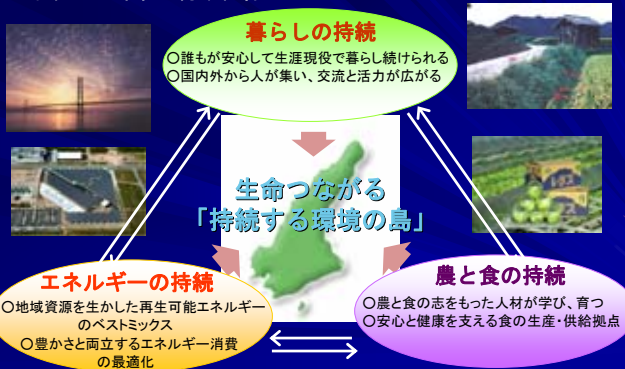
- ・地域ごとに、「ひょうごグリーンサポーター」が小学校や幼稚園・保育所で環境学習を支援（県内約1,000人が登録）

The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government



あわじ環境未来島構想

■取組の三本柱と将来目標



The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government



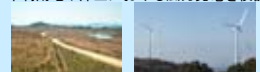
あわじ環境未来島構想

■展開中のプロジェクトの一例

エネルギーの持続

- ・未利用地を活用した大規模太陽光発電
- ・強い西風を生かした風力発電

- ・土取り跡地などの未利用地を活用した大規模太陽光発電所の立地を推進
- ・西岸の強い西風、遠浅の海を活用し、未利用地や洋上における風力発電を検討



農と食の持続

「チャレンジファーム」による人材の育成

- （株）パソナグループが開発した「チャレンジファーム」の充実や、修了後の就農や地元定着に向けた、耕作放棄地の活用や就農支援等を一体的に実施



暮らしの持続

高齢者にやさしい持続交通システムの構築

- ・コミュニティバスやデマンドタクシーなど超高齢化の進む農山漁村地域における持続可能な移動・交通のあり方を検討
- ・高齢者の転倒防止・健康維持に配慮した3輪又は4輪の電動アシスト自転車の開発・実証、新しい小型電動車両の開発・実証



The Environment Bureaus of Hyogo Prefectural Government



